

正岡子規

芥川龍之介

青空文庫

北原^{きたはら}さん。

×

「アルス新聞」に子規^{しき}のことを書けと云ふ仰せ^{あふ}は確^{たしか}に拝誦^{たいじゆ}しました。子規^{しき}のことは仰せを受けずとも書きたいと思つてゐるのですが、今は用の多い為^{なつめ}に到^{たうてい}底書^{ちてい}いてゐる暇^{ひま}はありません。が、何^{なん}でも書けと云はれるなら、子規^{しき}に関する夏目^{なつめ}先生^{せんせい}や大塚^{おほつか}先生^{せんせい}の談片^{だんぺん}を紹介^{しょうかい}しませう。これは子規^{しき}を愛する人人^{にんじん}には間^まに合せの子規論^{しきろん}を聞かせられるよりも興味^{きょうみ}のあることと思ひますから。

×

「墨汁^{ぼくじゆ}一滴^{いつてき}」だか「病牀^{びやうしやう}六尺^{ろくせき}」だかどちらだかはつきり覚えてゐません。しかし子規^{しき}はどちらかの中に夏目先生^{なつめせんせい}と散歩^{さんぽ}に出たら、先生の稲^{いね}を知らないのに驚いたと云ふことを書いてゐます。或時^{あるとき}この稲^{いね}の話^{わたり}を夏目先生^{なつめせんせい}の前^{まへ}へ持ち出すと、先生^{せんせい}は「なに、稲^{いね}は知

つてゐた」と云ふのです。では子規の書いたことは嘘だつたのですかと反問すると「あれも嘘ぢやないがね」と云ふのです。知らなかつたと云ふのもほんたうなら、知つてゐたと云ふのもほんたうと云ふのはどうも少し可笑しいでせう。が、先生自身の説明によると、「僕も稲から米のとれる位のことはとうの昔に知つてゐたさ。それから田圃たんぼに生える稲も度たび見たことはあるのだがね。唯その田圃たんぼに生えてゐる稲は米のとれる稲だと云ふことを発見することが出来なかつたのだ。つまり頭の中にある稲と眼の前にある稲との二つをアイデンティファイすることが出来なかつたのだがね。だから正岡まさおかの書いたことは一概いちがに嘘とも云はなければ、一概いちがにほんたうとも云はれないさ」！

×

それから又夏目先生の話に子規しきは先生の俳句や漢詩にいつも批評を加へたさうです。先生は勿論もちろん子規しきの自負心じこしんを多少業腹ごうはらに思つたのでせう。或時英文を作つて見せると——子規はどうしたと思ひますか？ 恬然てんぜんとその上にかう書いたさうです。——ヴエリイ・グツド！

×

これは大塚先生の話です。先生は帰朝後西洋服と日本服との美醜を比較した講演か何かしたさうです。すると直接先生から聞いたかそれとも講演の筆記を読んだか、兎に角その説を知った子規は大塚先生にかう云つたさうです。――

「君は人間の立つてゐる時の服装の美醜ばかり論じてゐる。坐つてゐる時の服装の美醜も併せて考へて見なければいかん。」わたしのこの話を聞いたのは大塚先生の美学の講義に出席してゐた時のことですが、先生はにやにや笑ひながら「それも後に考へて見ると、子規はあの通り寝てゐたですから、坐つた人間ばかり見てゐたのでせうし、わたしは又外国にゐたのですから、坐らない人間ばかり見てゐましたし」と御尤もな註釈をもつけ加へたものです。

ではこれで御免蒙ります。それからこの間お出になつた方にもちよつと申し上げて置いたのですが、どうか「子規全集」の予約者の中にわたしの名前を加へて置いて下さい。以上。

(大正十三年四月)

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

正岡子規

芥川龍之介

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>